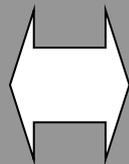


# 最新ディーゼルトラックへLPガス添加し燃料費節減をトラック事業者等にPRする事業

背景

- トラック・バス等の輸送に使われる軽油価格が大幅に上昇
- 輸送事業者の燃料費構成比率が17～38%まで上昇経営を圧迫
- LP自体は、需要減少に伴う新規需要先の開拓が少ない
- トヨタ、ニッサンがLPGタクシーから撤退
- 新たな自動車用途を開拓しないと、LPGスタンドインフラが閉鎖される



- シェールガスが2017年から日本に流入し、LP・天然ガスが変わる
- 海外では、新たな自動車燃料としてディーゼル+LPを使用する「デュアルフューエル」が開発されつつある。
- 過去にもデュアルフューエルは幾つもあるが、最新のディーゼル車ベースでは日本ではPRがされていない。
- 乗用車系は比較的技術ハードルが低い、高負荷な重量車では、シャーシダイナモの使用が必要であり1改造事業者には困難

本事業では、LPガス業界（LPG車やLPガススタンド）の視点ではなく、「燃料費削減」というユーザーの要望レベルに直接PRを通じ体験させ、なおかつ過去の技術ではなく「現在の最新技術」を実証しPRする事業である。これにより、「燃料費用節減策としてのLPガス利用」「過去のLPG混合燃焼ではなく、ディーゼルエンジンもLPガスも最新技術で」「なおかつ、パワーと排気ガス性能の両立を求められる重量車のトラックで」を実証し、トラック事業者を中心に検証PRし、新たなLPガス利用を拡大しスタンド事業者の構造改善に資するものとする。

手法

だるまエナジー・城東自動車工場

2社を事務局・実務団体として、トラックユーザー・学識経験者などと共に委員会をつくり事業推進を行なう体制とする。（城東自動車工場は過去に産総研LPG・DME車開発の実務機関）

PR用検証自動車の準備  
(三菱ふそう2～4トン積ベース)

検証自動車の  
運行プロジェクト

技術対応力のPR  
(最新技術+重量車トラック対応)

ユーザーへのヒアリング

実際に検証用トラックで  
シャーシダイナモでのデータ収集

1. 最大混合量の検証
2. 走行性能・経済性検証  
(実車を使い、城東自動車保有のシャーシダイナモで検証)

ユーザーでのPR活動

実際に検証用自動車を  
ユーザーに活用し、周知と  
関心を高める

技術可能性の  
PR

(過去とは技術ベースが  
変わったことと  
重量車での可能性周知)

輸送事業者団体  
ユーザーサイド  
でのPR・実運行

展示会・学術発表でのPR

輸送事業者へのPR

1. 輸送事業者・燃料事業者へ資料提供
2. Web等で広く社会に周知

効果

- ディーゼルデュアル車は過去にもあるが、技術進歩により進化したLP混合で、燃料経済効果を生み出すことのPR
- 新たなLPの需要開拓先として、輸送事業者は有望であり、実際に実車でPRすることで関心を高め新たなLPG需要の拡大(コスト削減したいトラック輸送・LPガス業界の配送トラック向け)
- LP業界での、タクシー利用量減少に代わる需要開拓先としてPRし、スタンド事業者の構造改善を図る